

市 のまち

No.16



多い伝承、意味は不明

鬼 越

また、村人たちは神明様を崇敬して神社を建て、氏神としました。その地が字「神明」で、現在の神明神社のあたりになります。

以上いろいろな話が伝えられていますが、「鬼越」の本当の意味は分かりません。この話に出てくる字名を地図に書き込んでみましたが、参考にしてみてください。

鬼越村は、現在の鬼高の地域に、たくさんの飛び地をもっていました。その飛び地の中には、「判官沼」「身洗い」などの字名がありました。これについては、小栗判官という人が小栗原（船橋市・現在本中山）へ向かうとき、この沼に馬を乗り入れてしまい、泥まみれになつた身体を洗つたところと伝えられています。

また、神明神社の向かいには、京成電鉄をはさんで神明寺があります。この境内には大きな銀杏の木があり、小栗判官が自分の馬をつないだという話も伝えられています。

明治十一年、小栗原村は、高石神村と組合村をつくり、連合戸長役場を鬼越に置きました。同十九年には中山・北方・若宮の各村がこれに加わり、同二十二年、町村制の実施で中山村鬼越になりました。

には「鬼のみま草踏み越えて」と「鬼越」を歌いあげています。

になつて「鬼越」となつたとも言われています。また、字名の「世直」は、村人たちが島野にいる鬼どもを追い払い、ここに祠(ほこら)を建てて、「世直社」と号したことによ来すると言われ、この話から、最初「鬼にけ」と言つたものが、後に「鬼越」になつたとも言われて

郎紹

(社会教育指導員・綿貫喜)